

プロジェクト13 子ども・子育て応援社会の推進

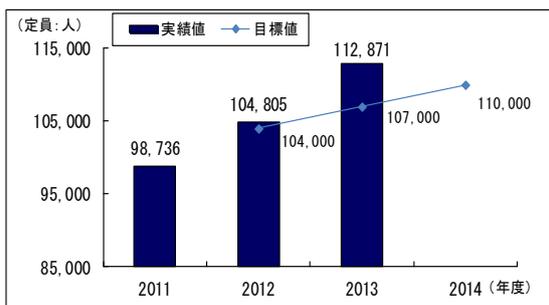
民 保 土 教

プロジェクトのねらい

- ♪ 安心して子育てできる環境の実現
- ♪ 子どもの育ちを社会全体で支援する機運の醸成
- ♪ 「生みたい・育てたい」と「働きたい」の両立支援

数値目標の達成状況

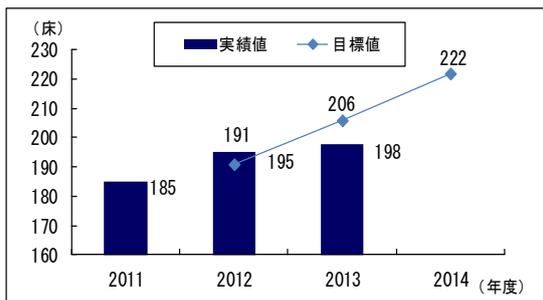
◆ 認可保育所の定員数 (次世代育成課調査)



【2013年目標値】 107,000人
 【実績値】 112,871人
 【達成率】 105.4%

- ・ 2013年の達成率は105.4%となっています。
- ・ これは、安心こども基金の活用などにより、市町村における保育所整備が進んだことによるものです。

◆ 県内病院のNICU (新生児集中治療管理室) 病床数 (累計) (医療課調査)



【2013年目標値】 206床
 【実績値】 198床
 【達成率】 96.1%

- ・ 2013年の達成率は96.1%となっています。
- ・ これは、人身体制の確保が困難であることなどから、病床の整備が進まなかったことによるものです。

◆ 「かながわ子育て応援パスポート」協力施設数 (累計) (次世代育成課調査)



【2013年目標値】 2,000施設
 【実績値】 2,006施設
 【達成率】 100.3%

- ・ 2013年の達成率は100.3%となっています。
- ・ これは、企業訪問などにより、事業者などの理解・協力が広がったことによるものです。

2013年度の主な取組みと成果

① 安心して生み、育てるための医療体制の充実

- ・ 出産の場の確保と出産前後の医療体制の整備
 - 分娩取扱施設の開業に係る施設及び設備の整備への支援 (3施設)
- ・ 子どもの救急医療体制の整備
 - 小児救急の輪番病院及び拠点病院の運営事業への支援 (10か所)

② 出産・育児を応援する環境づくり

- ・ 社会全体で子育てを支援する環境の整備
 - 子育て支援に取り組む事業者の認証「かながわ子育て応援団」（累計485社）
- ・ 子育て支援の機運の醸成
 - 「かながわ子ども・子育て支援月間」の広報と協力事業実施（781事業）

③ 働きながら子育てできる環境と子どもの居場所づくり

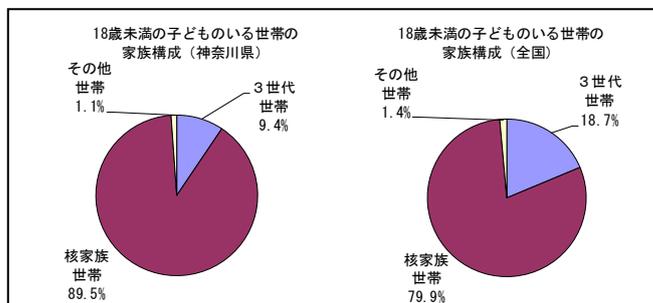
- ・ 保育サービスの基盤づくり
 - 安心子ども基金の活用などによる認可保育所の定員増（8,066人増）
- ・ 子どもが安心して放課後を過ごせる居場所づくり
 - 放課後児童クラブ(28市町村338クラブ)・放課後子ども教室(22市町村86教室)を設置・運営する市町村に対する支援

県民ニーズの動向 （→調査結果のホームページへ ①重要度・満足度調査 ②③生活意識調査）

- ① 「安心して子どもを生み育てられる環境が整っていること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 84.7%
- ② 「育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」と思う人の割合 ⇒ 90.3%
（39項目中3位）
- ③ 「子どもを生み育てる環境が今のままでは、子どもを持つのはむずかしい」と思う人の割合 ⇒ 60.2%

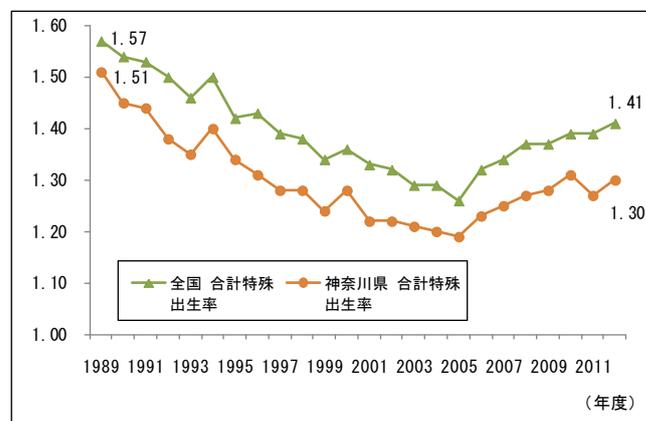
その他社会環境を表す指標

◆ 18歳未満の子どもがいる家庭の3世代同居の割合 （平成22年国勢調査）



・ 子育て世帯における3世代同居の割合は、全国平均18.7%に対し、神奈川県では9.4%と全国で2番目に低く、核家族化が進んでいます。

◆ 合計特殊出生率（「H24神奈川県衛生統計年報」）



・ 神奈川の合計特殊出生率は、2005年から増加傾向に転じましたが、全国平均の1.41より低く、1.30となっています。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 神奈川県周産期医療体制について
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100366/>
- ・ 神奈川県子ども・子育て支援白書
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6583/>
- ・ 子育て支援情報サービスかながわ（神奈川県内の子ども・子育て総合情報サイト）
<http://c.rakuraku.or.jp/>
- ・ 保護者ニーズ調査結果（保育に対するニーズ把握のための調査）
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f300607/>
- ・ 少子化社会対策に関する調査等（内閣府）
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/cyousa/cyousa.html>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 認可保育所定員数、「かながわ子育て応援パスポート」協力施設数とも、目標を達成しました。
- ・ 保育ニーズは依然、高い水準が続いており、保育所入所待機児童問題が依然深刻な地域があります。
- ・ 県民ニーズ調査からは、育児に対する社会の評価が不十分で、子どもを産み育てる環境が厳しいと考えられている状況がうかがえ、合計特殊出生率は、全国平均(1.41)より低い1.30となっています。
- ・ 子育て世帯の約9割が核家族である神奈川では、地域や職場など社会全体で子育てを支援する機運の醸成が、子育てのしやすさにつながると考えられます。

⇒ 3項目中2項目で数値目標を達成するなど、子育てをめぐる環境づくりは着実に進んでおり、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

🍷 安心して子育てできる環境の実現

- ・ 県内病院のNICUの不足と長期入院児への対応が課題
→ NICUやPICU（小児集中治療室）を備えた小児救急拠点医療機関の整備や体制強化などの取組みの推進

🍷 子どもの育ちを社会全体で支援する機運の醸成

- ・ 地域、職場など社会全体で子育てを応援する機運の醸成が課題
→ 「かながわ子育て応援パスポート」や「かながわ子育て応援団」への事業者の協力・参加の促進

🍷 「生きたい・育てたい」と「働きたい」の両立支援

- ・ 地域の保育ニーズを踏まえた保育所定員増への対応が課題
→ 市町村と連携し、安心こども基金を活用した保育所の整備など、待機児童対策の推進

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 安心して生み、育てるための医療体制の充実に向けては、さらなる医療人材の確保・養成を進めていく必要があります。

プロジェクト14 子どもの安心のための総合的な支援

民 保 教 警

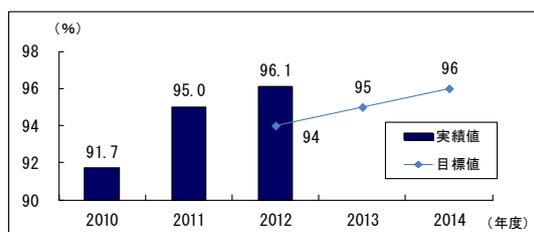
プロジェクトのねらい

- 👉 子どもの尊厳、いのちを守る
- 👉 一人ひとりの子ども・若者の可能性を拓く

数値目標の達成状況

◆ いじめ認知件数のうち、年度内に「状況改善」した割合

(児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査)



【2013年目標値】 【実績値】 【達成率】

95%

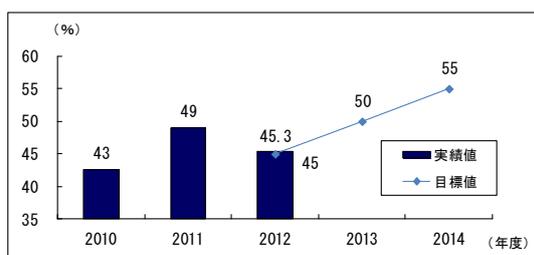
-

-

- ・ 2013年の実績値は2014年9月に公表予定です。
なお、2012年の実績値は96.1%となっています。

◆ 親子関係の改善などにより、児童相談所の関わりが必要なくなった児童虐待相談件数の割合

(子ども家庭課調査)



【2013年目標値】 【実績値】 【達成率】

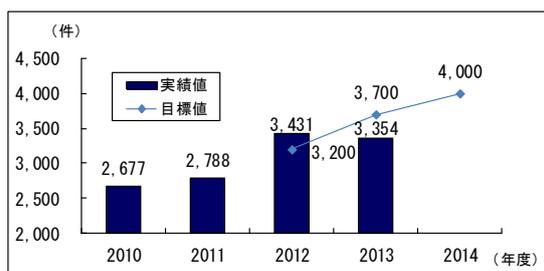
50%

-

-

- ・ 2013年の実績値は2014年6月に把握予定です。
なお、2012年の実績値は45.3%となっています。

◆ 子ども・若者総合相談センターで受ける相談件数 (青少年課調査)



【2013年目標値】 【実績値(速報値)】 【達成率】

3,700件

3,354件

90.6%

- ・ 2013年の達成率は90.6%です。
- ・ これは、子ども・若者総合相談センターと地域若者サポートステーションの連携が進む中、二つの若者に特化した相談支援の利用が、地域若者サポートステーションにシフトしたことによるものです。

2013年度の主な取組みと成果

① すべての子どものいのちを守る体制づくり

- ・ 児童虐待の未然防止に向けた関係機関連携による地域のネットワークの充実
→ 「孤育て」防止のための保健・福祉・医療の関係機関連絡会議の開催(14回)
- ・ いのちの大切さの学びと学校などにおける取組みの推進
→ 中高生対象の「いのちの大切さを学ぶ教室」の開催(96回)

② 支援を必要とする子どもの育ちを保障するしくみづくり

- ・ 学校と家庭、地域、関係機関などの連携による支援の強化
 - 元気な学校ネットワーク推進会議（3回）、関係機関との連携推進プロジェクト（8回）の実施
- ・ 子どもへの専門的ケア体制の整備
 - 里親、児童福祉施設、相談機関の職員など、人材育成のための研修の実施（57回）
- ・ 児童自立支援拠点の整備
 - 拠点整備のための基本設計の実施

③ 子ども・若者の社会的自立を支援するしくみづくり

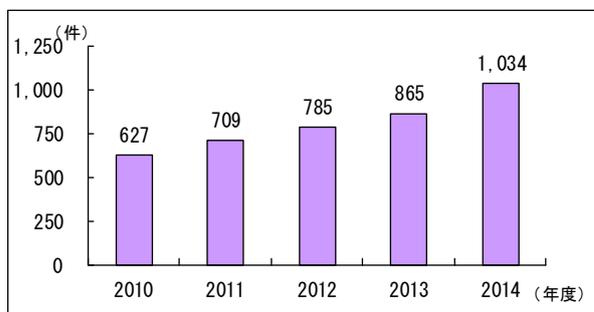
- ・ 子ども・若者の総合相談体制の整備
 - 神奈川県子ども・若者支援連携会議（全体会議、5地域ブロック会議）の開催
- ・ 地域における相談・支援体制の充実
 - 市町村と連携した県西部地域若者サポートステーションによる出張相談（厚木市内14回）、講座・セミナー（8市90回）の実施

県民ニーズの動向（→調査結果のホームページへ ①生活意識調査）

- ① 「今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっていこう」と思う人の割合 ⇒ 16.5%

その他社会環境を表す指標

◆ 子どもの健全育成の分野で活動するNPO法人数（NPO協働推進課調査）



- ・ 非行防止活動やいじめ相談、児童虐待防止、児童相談、放課後活動の実施、学童保育事業など、子どもの健全育成の分野で活動するNPO法人は、年々増加しています。
- ・ こうした民間団体も、子どもの尊厳、いのちを守り、子どもが安心して成長できる環境をつくっています。

主な取り組みや統計データに関する情報

- ・ かながわ子どもスマイル（SMILE）ウェブ
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f370184/>
- ・ かながわ「いのちの授業」
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417796/>
- ・ かながわオレンジリボンキャンペーン
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/1395/orc/index.html>
- ・ かながわの青少年（神奈川県青少年白書）
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417388/>
- ・ 青少年に関する調査研究等（内閣府）
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu.htm>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ いじめ認知件数のうち、年度内に「状況改善」した割合は、着実に増加しています。
- ・ 親子関係の改善などにより、児童相談所の関わりが必要なくなった児童虐待相談件数の割合は、2012年は目標を達成しましたが、児童虐待相談件数そのものは増加傾向にあり、市町村の母子保健や医療機関など関係機関と連携した発生予防の取組みが求められます。
- ・ 神奈川県子ども・若者支援連携会議の開催により、国、市町村、県が連携を進め、地域における相談・支援体制の充実を図りました。
- ・ 様々な心の悩みや、家庭環境などの課題を抱えた児童・生徒を支援するため、教育相談体制の充実や関係機関との連携推進が求められています。
- ・ 若者の社会的自立に向けた支援の取組みで、市町村と県西部地域若者サポートステーションとの連携が進んでいます。
- ・ 県民ニーズの動向からは、今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになるのは難しいと考える人が多い状況がうかがえます。

⇒ いじめ認知件数のうち、年度内に「状況改善」した割合が着実に増加しており、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

♪ 子どもの尊厳、いのちを守る

- ・ いじめや暴力行為、不登校の未然防止、早期改善が課題
 - 学校と家庭、地域、関係機関との連携した取組みを一層強化
- ・ 増加傾向にある児童虐待の発生予防が課題
 - 「孤育て」防止のため、市町村の母子保健や医療機関と連携した取組みを一層強化

♪ 一人ひとりの子ども・若者の可能性を拓く

- ・ 地域における相談・支援体制の一層の充実が課題
 - 地域若者サポートステーションの新たな整備による相談・支援の充実

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 児童虐待の相談件数が増加傾向にあることから、虐待が深刻化する前の段階での取組みの一層の充実が必要です。

プロジェクト15 明日のかながわを担う人づくり

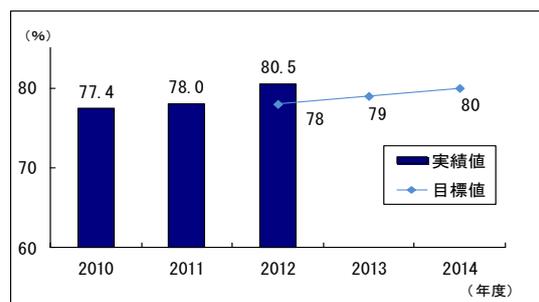


プロジェクトのねらい

- 👉 豊かな人間性や社会性の育成
- 👉 課題を抱えた子どもたちへの教育の充実
- 👉 安心して学べる教育環境の実現

数値目標の達成状況

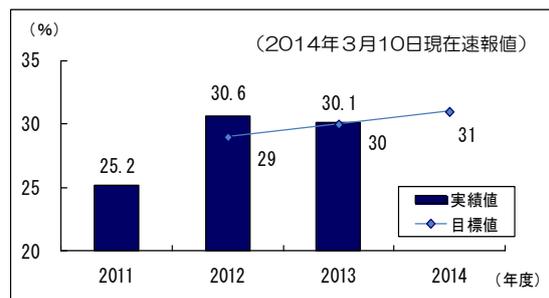
◆ キャリア教育により成長できたと感じる県立高校生の割合 (高校教育企画課調査)



【2013年目標値】 79% 【実績値】 — 【達成率】 —

- ・ 2013年の実績値は2014年6月に把握予定です。
なお、2012年の達成率は103.2%となっています。

◆ 特別支援学校高等部（知的障がい部門）の卒業生の就職率 (特別支援教育課調査)



【2013年目標値】 30% 【実績値(速報値)】 30.1% 【達成率】 100.3%

- ・ 2013年度の達成率(速報値)は100.3%となっています。
- ・ これは、ハローワークや就労支援機関等と連携した就労促進に向けた取組みを進めたことによるものです。

2013年度の主な取組みと成果

① 一人ひとりの生きる力を高める学校教育

- ・ 確かな学力の向上の推進
 - 県立高校における授業改善を学校全体で推進するための取組みを紹介する公開研究授業の実施(63回)
 - 公立小・中学校における市町村教育委員会と連携した授業改善などの実践研究(10地域)
- ・ 活力と魅力ある県立高校づくり
 - 「神奈川の高校展2013」の開催(延べ約11万人)
- ・ キャリア教育などの推進
 - 県立高校生のインターンシップ体験(全日制142校、6,105人)
 - 総合職業技術校を活用した中学生、高校生へのキャリア教育の実施(延べ2,045人)
 - 参議院議員通常選挙の実施に合わせて県立高校全校で模擬投票を実施
- ・ 科学への理解を高める活動の推進
 - かながわサイエンスサマーの実施(実施機関132機関、参加者579,550人)
 - 「科学の甲子園 神奈川県大会」の実施(県内高校12校参加、参加者94人)

② 障がいのある子どもたちを育む支援教育の推進

- ・ 特別支援学校の整備
 - 横浜ひなたやま支援学校の整備（2013年4月開校）
- ・ 支援教育の推進
 - 企業における生徒の体験実習（延べ201人）

③ 児童・生徒が学ぶ環境づくり

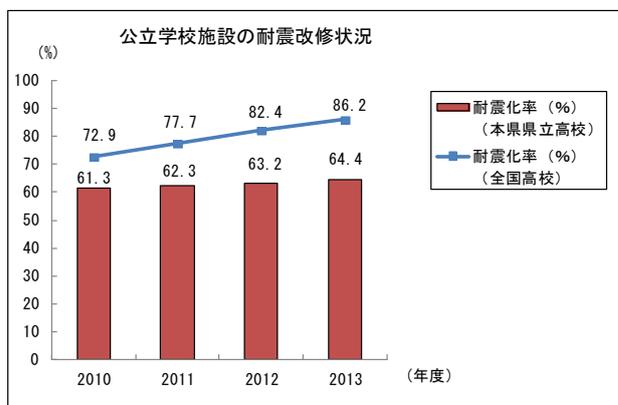
- ・ 高い指導力と意欲をもつ教職員の確保・育成
 - かながわティーチャーズカレッジの実施（修了者235人）
- ・ 「県立教育施設再整備10か年計画」（まなびや計画）に基づく耐震化・老朽化対策の推進
 - 県立学校の耐震化の実施（建替工事10校、耐震補強工事4校）

県民ニーズの動向 （→調査結果のホームページへ ①重要度・満足度調査）

- 「一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性をはぐくむ学校教育が行われていること」を重要だと思う人の割合 ⇒ 77.8%
（県民重要度）

その他社会環境を表す指標

◆ 県立高校の耐震化率（文部科学省「公立学校施設の耐震改修状況調査」）



- ・ 2013年の耐震化率は64.4%となっており、耐震化の取組みを着実に進めていますが、全国平均を大きく下回る状況となっています。
- ・ これは、昭和40年代後半からの「高校百校新設計画」により建設された県立高校の多くが、耐震化の対象校となっているためです。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 県立高校改革について - 活力と魅力ある県立高校をめざして-
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6912/>
- ・ かながわサイエンスサマー
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7414/>
- ・ 神奈川の特別支援教育資料
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6720/>
- ・ かながわティーチャーズカレッジ
<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/college/college2014.html>
- ・ 公立学校施設の耐震改修状況調査の結果について
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/08/attach/1324003.htm

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 特別支援学校高等部（知的障がい部門）の卒業生の就職率は、目標を達成しました。
- ・ 一人ひとりの生きる力を高める学校教育、障がいのある子どもたちを育む支援教育及び児童・生徒が学ぶ環境づくりの取組みは、着実に進められています。
- ・ 「豊かな人間性や社会性をはぐくむ学校教育」を重要と思う県民の割合は高い傾向にあります。
- ・ 県立高校の耐震化は着実に推進していますが、耐震化が必要な学校は未だ多く残っている状況にあります。

⇒ 数値目標の達成状況は2項目中1項目で未把握ですが、一人ひとりの生きる力を高める学校教育などは着実に進められており、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

♪ 豊かな人間性や社会性の育成

- ・ 確かな学力の向上の推進が課題
 - 県立高校教育力向上推進事業Ver.Ⅱにおける研究推進校の取組みの充実などによる組織的な授業改善の推進
- ・ 活力と魅力ある県立高校づくりの推進が課題
 - 県立高校全体の教育力向上の取組みの改善・充実
 - 私立高校との連携及び大学との協力などによる「神奈川の高校展」の一層の充実
- ・ 県立高校全校におけるキャリア教育のさらなる充実が課題
 - 「県立高校におけるキャリア教育の推進について」（指針）に基づくキャリア教育実践プログラムの点検・評価による計画の改善・充実
- ・ 科学への理解の促進・充実が課題
 - 子どもたちの科学技術への理解増進を図るため、科学に触れ合う場や機会を提供
 - 子どもたちの科学技術への興味関心を高める学習プログラムの充実

♪ 課題を抱えた子どもたちへの教育の充実

- ・ 教育相談コーディネーターの異動退職に伴う減員への対応と各校への複数名配置が課題
 - 2014年度以降も、小・中学校、高等学校の養成講座を継続して実施

♪ 安心して学べる教育環境の実現

- ・ 教員の世代交代を踏まえた人材育成が課題
 - 急増する若手教員の支援や実践的な研修などによる人材育成の充実
- ・ まなびや計画に基づく耐震化・老朽化対策の推進が課題
 - 2016年度までの計画期間内に大規模な補強や建替を必要とする県立学校の耐震化を実施

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 学校運営に地域の意見を反映させる環境づくりを引き続き進めていく必要があります。